

親子ちゃれんじ③ 淡路原人になろう～火遊びと狩りをしよう～

- 趣 旨：**地域の子育て支援として、幼児に関わる保護者の緩やかなコミュニティを創る。
親子で夢中になる機会を通して、お互いに楽しむ時間の大切さを感じる。
- 日 時：**平成31年2月16日（土）13:00～2月17日（日）12:00
- 場 所：**国立淡路青少年交流の家
- 対 象：**子どもとその保護者
- 参加者：**11家族32名（保護者15名、子ども17名）
- 講 師：**竹細工指導 亀渕 池一氏



7 プログラムの内容

2月16日（土）13:30 火をあやつろう

交流の家の野外炊飯場にて、薪を組んで自分たちで火をつけて、大きな火に育てられるように練習した。マッチの火はどこが一番熱いか、新聞紙や牛乳パック、そして小枝や薪をどのように組めば、火を上手に育てられるかを教えてもらってから、家族ごとに火をおこしてみた。マッチを初めて使う子どももいたが、何回も何回も繰り返し練習することで、上手に使えるようになっていた。

その後、火おこし器（舞切り式）、ファイアースターター、虫眼鏡と、いつも使うライターやマッチとは違う道具を使っての火おこしに親子でチャレンジした。初めはなかなか火をつけることができなかったが、親子はもちろんのこと、それを飛び越え参加者同士で教えあったりしていた。時間が経つにつれ、火種の前段階の煙が出てきて、種火をほぐした麻ひもに乗せて、空気を送ると火がつき、それぞれの場所で歓声が上がっていた。

自由に火がつけられるようになったら、その火を使ってマシュマロを焼いたり、空き缶でポップコーンを作ったりした。あぶったり、火にかけたりしてできる簡単なおやつづくりだったが、自分たちが育てた火でつくったおやつになったことで、子どもも大人も「おいしい！」と言いながら食べていた。



2月16日(土) 19:00 キャンドルのつどい

夕食を食べた後、参加者全員でキャンドルを囲み、職員やボランティアが行うゲームを楽しんだ。昼間の火おこしで仲良くなっていたため、最初から盛り上がりを見せ、みんなで大きな声を出したり手を叩いたり、講堂内を走り回ったりし、夜のひと時を楽しんだ。



2月17日(日) 9:30 狩りをしよう

交流の家で竹細工の研修指導員として活躍している、亀淵沁一氏に教えてもらいながら、弓矢と吹き矢をつくった。弓矢づくりでは竹割器で竹を割るところから始め、のこぎりで長さを調整し、触りやすいようにやすりをかけ糸を張りつくった。最初はうまく糸を引っ張ったり、離したりするタイミングが取れず、前によく飛ばなかったが一人が的に当たり始めると、その飛ばし方を周りにいる子どもたちが真似をしたり、飛ばせた人が教えたりして弓が前に飛んだり、的に当たったりして歓声が上がっていた。吹き矢づくりも竹の節を抜いて、チラシで矢をつくるのが難しかったが、小さな子どもでも何回かすると、的に当たるようになり、喜んでいる姿が垣間見られた。



8 参加者の声

- 他の参加者と一緒に楽しめる内容があったことが何より楽しかった。
- いろいろな火の使い方を体験できて良かった。
- 弓矢が楽しかった。マシュマロが美味しかった。
- 火遊びを教えてもらいながらも、自分で発見していけるような伸び伸びとしたイベントだった。

9 所感

事前に50名程の申し込みがあったが、インフルエンザ等の関係でキャンセルが出てしまい、参加人数が少なくなってしまった。「火遊びをしよう」のプログラムを開始したときは、家族ごとで火をおこし、種火を育てたが、時間が経つにつれ家族間の交流が広がり、特に舞切り式の火おこし器での火付け方法では、着火できた人が他の人にコツを教えたり、サポートしたりする姿が見られた。このような姿は、2日目の弓矢や吹き矢づくりでも引き続き見られたことから、今回の事業では、家族間の交流が多く生まれ、事業の目的としている幼児期の子どもをもつ保護者同士の緩やかなコミュニティづくりが進んだと考えられる。